

センターだより

第88号
2022.01.01

50周年記念特集号

年頭の「ご挨拶」

代表理事組合長

松田 登貴也



新年明けましておめでとうございませう。皆様方には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年、1月17日をもって、当組合の設立50周年を迎えることとなります。ひとえに、組合員、出荷者や買参人の皆様をはじめとする関係各位のご指導、ご協力のもと深く感謝しております。これからも、先人たちが当組合を築いてこられた経験と実績を踏まえ、更なる進化を遂げてまいります。常に時代のニーズに合わせるべく、柔軟な対応と何事にもチャレンジする積極的な姿勢をもって、今の厳しい状況を乗り切り、組合の発展に努力してまいります。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大により、我が国の経済は、回復の進み具合に力強さを欠き、停滞感が続いているものの、新規感染者数の減少などにより、回復の兆しがみられます。個人消費についても、これまで大きく低迷していたサービス消費を含め、足元では持ち直しの動きが広がっていますが、輸出や生産は半導体不足やサプライチェーンの混乱等に伴い弱い動きになっています。

先行きにつきましては、行動制限の緩和などにより個人消費の持ち直しなど、景気回復に期待が寄せられますが、景気が悪化する恐れとして、特に国内外での変異株（オミクロン株等）を含む感染再拡大や、原油価格の高騰を注視する必要があります。

このような厳しい経済環境下で、当組合は、売上を確保するための取組みを進めるべく、良品の集荷に努め、品ぞろえにおいて魅力的な市場を目指してまいりました。また、コロナ禍の中で、新しい生活様式に伴う花き需要の変化に対応し、消費者ニーズを的確にとらえた商品の提案を行なうことで、業績の拡大を図っております。

最後になりましたが、組合員皆様方の変わらぬご指導ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

令和4年主要行事予定

1. 行事

花き植木農協組合長表彰及び各種品評会表彰式
第51回通常総代会 5月24日(火)
第14回大和路花と緑のフェスティバル 10月上旬

2. 初市・止市

切花 1月5日(水)・12月28日(水)
鉢花 1月10日(月)・12月26日(月)
植木 1月18日(火)・12月20日(火)

3. 大市

春の植木大市 3月15日(水)
中元贈答用鉢花大市 6月23日(木)
秋の植木大市 10月18日(火)
秋の鉢花大市 10月20日(木)
正月用鉢もの材料大市 11月17日(木)
歳暮贈答用鉢花大市 11月24日(木)
正月用切花材料大市 (若松等) 予定 12月3日(土)
(オモト) 予定 12月3日(土)
(千両) 予定 12月17日(土)

4. 品評会

令和3年度鉢花第3回大口品評会 3月23日(水)
令和4年度鉢花第1回大口品評会 5月11日(水)
令和4年度鉢花第2回大口品評会 11月16日(水)
令和4年度植木品評会 10月5日(水)
～10月18日(火)
令和4年度花き植木立毛品評会(切花) 9月1日(木)
～10月31日(月)
春日大社・奈良県切花品評会 予定 9月下旬

5. 仕事はじめ・おさめ

令和4年1月7日(金)・12月28日(水)

鉢花市況

新年明けましておめでとうございませう。日頃より当組合をご利用いただき誠に有難うございませう。

昨年は新型コロナウイルスが蔓延する中で、ワクチン接種が始まり、9月にはコロナウイルスの感染拡大が急速に鎮まりました。緊急事態宣言が解除されて、町には人手が戻り、経済活動の回復への動きが少しずつ高まってきました。このような中、昨年の春から秋にかけては、一昨年に見られた活発な動きは無いものの、9月頃までは商品の流れもよく、特に観葉植物については例年にならない買参人の引合いがありました。10月に入り、台風の影響により気温は高く、品質、売行きの両方の面で苦戦を強いられました。昨年はバンジー、ピオラ、ガーデンシクラメンなども全体的に開花が早く、入荷も順調に推移しました。その反面、高かった気温の影響から商品の傷み、また販売店での売れ行きも鈍くなりました。その結果、買参人の買い控えによりセリ場の相場は低く、セリ全般として非常に厳しいものとなりました。10月の後半には気温も少しづつ下がりがり出し、秋冬商品の相場も少しづつではあります、戻ってきました。

コロナ禍において高かった相場も徐々に下がってまいりました。しかし販売形態につきましては、インターネット等による情報発信や、商品紹介、および販売と大きく様変わりしつつあります。緊急事態宣言の解除により、人々が動き出すことで、経済回復の流れが出てきた事に伴い、鉢物業界における売行も伸びていく事を期待します。

厳しい状況は続きますが、引き続き良品の入荷に努めてまいります。

鉢花課長 東川正彦

切花市況

新年明けましておめでとうございませう。平素は当組合を御愛顧賜り有難うございませう。昨年の秋以降につきましては、10月は好天に恵まれ、入荷は順調に推移しました。中でも菊類はやや品薄ながらも大きな欠品は無く、洋花も順調な動きとなりました。

11月は上旬から中旬にかけて、産地の切替え及び冬春品種への切替えの時期にあたり、一部の商品で薄が続きました。しかし中旬を過ぎると九州の大菊や、沖縄の小菊の出荷が始まり、入荷量も安定し、価格も落ち着きを見せました。12月4日は松、オモト大市を行いました。松は愛媛県、茨城県、兵庫県より入荷いたしました。気候状況も良く、生育は順調でした。オモトは徳島県、和歌山県より入荷いたしました。気候条件も良好で生育も順調でした。但し、前注文も多く、品薄となりました。

12月14日は千両、花梅大市を行いました。千両は千葉県、和歌山県より入荷いたしました。千葉県産につきましては、天候に恵まれ、実付きも良く、上位等級中心の出荷となりました。和歌山県産は、上位等級よりも下位等級が増加しました。花梅は福島県産を入荷しました。入荷は前年並みとなりました。

本年もより良いサービスを提供できる市場として取り組んでまいります。今後とも引き続きよろしくお願ひ致します。

切花課 坂田三和

花き集出荷情報

新年明けましておめでとうございませう。本年も変わらぬお引き立ての程宜しくお願ひ致します。

新型コロナウイルスの感染が始まって丸二年、緊急事態宣言が繰り返し発令され、消費者ニーズは大きく変わってきたように思われます。花き業界は冠婚葬祭やイベントの自粛・縮小のあおりを受け、未だに業務用の装飾商材の需要はコロナ禍前に戻っていません。

在宅需要がガーデニング等の個人消費を押し上げるなど、プラスに働かせる側面もありましたが昨年は売れると見越して生産を増やした商品が安かったり、需要は回復してないものでも産出国のロックダウンで輸入に頼っていた商品が品薄になったり、また種子等も輸入できず生産自体ができなかったりと外国の感染状況の変化によっても市場は混乱させられました。

この状況に加え原油高、人手不足などを発端にした世界的な物価高の影響で、資材や暖房、輸送代等の値上げが加速し、サプライチェーン全体に懸念材料が広がっています。

当組合は切花、鉢花、植木、資材と総合的に花き関係の卸売業務をしております。さらに県内の花き生産品を県外の花き卸売市場へ出荷する集出荷業務を行っております。今現在出荷して頂いている主な花の種類は切花は切り枝、切り葉、球根切花で、鉢花は一年草、多年草の花壇苗や多肉植物です。出荷する市場やセリ日、販売ロットの大きさにより価格は変動します。そのため当組合では、細かい状況の変化に即座に対応していくことを、常に心がけております。切花は関西10市場へ日、火、木の週三回、鉢花は豊明、名港、浜松の中部3市場へ火、金の週二回発送しております。県内出荷者の皆様におかれましては、ご興味をお持ちの方は、ぜひ当組合までお問い合わせくださいませう、お願ひ申し上げます。

集出荷業務 杉浦康之

組合員のみなさまへ

組合員の登録内容に変更のある場合は、地区の役員にご相談ください。

植木情報 品評会の報告

植木情報

「植木の力」

新年明けましておめでとうございます。日頃より当組合をご利用いただき有難うございます。

昨年の4月、5月につきましては、一昨年に比べて、入荷量は増えました。中低木の良品につきましては、買参人の引き合いが強く、高単価で取引出来ました。

相対注文につきましては、公共工事の減少により、大幅に落ち込みました。10月、11月に至っては、公共工事の関連の問合せはほとんどない状態でした。入札価格が上がり、低価格の入札が当たり前の状況が続いています。工事業者は品物が少ないにもかかわらず、良品で、なおかつ低単価を求められます。

このように厳しい状況が続きますが、ここで今一度、植木が本来持っている力を見直してみようか。

近年稀に見る災害が各地で続いています。街路樹や庭木が倒され、大きな被害が各地で相次いで発生しています。復旧のため、巨木を処理する作業員達の姿をメディアで多く目にする機会が増えました。

一般家庭でも、新築された際に植えられた庭木も駐車場設置のためなど何十年と生きてきた植木が伐採されることが多くなりました。

しかし植木が皆さんの家庭や職場などで植えられるまでには、生産者を始め多くの方々の丁寧な作業と、そして何よりも溢れんばかりの愛情が込められています。

目にも鮮やかな緑、色とりどりに咲く赤や白の花や、真っ赤に色づいた実付きの庭木に目を奪われながら、身近に植木を植えて、育てる喜びを感じる、そんな心の余裕を持ちながら、目で見る美しさだけでなく、心にゆとりを持たせる効果、植木にはそんな一面も実感できると思います。

温暖化が心配される昨今、出来る限り樹木の伐採は行わず、植えられるところには、たくさん樹木が植えられることを期待します。

植木課 森川 勝彦

品評会の報告

令和3年度奈良県花き植木品評会
総出品点数

植木 20点
切花 79点
鉢花(第一回) 29点
鉢花(第二回) 37点

【植木品評会】

(令和3年10月6日
～10月19日)

(※以下敬称略)

- ・農林水産省生産局長賞
大和郡山市 三橋正和 オタフク南天
- ・奈良県知事賞
宇陀市 西向祐二 台杉
- ・日本植木協会会長賞
大和郡山市 今西康彰 マホニアコンフーサ
- ・近畿花き振興協議会長賞
大和郡山市 久保田裕次 オタフク南天
- ・奈良県造園業協同組合理事長賞
大和郡山市 佐野浩之 サツキ
- ・奈良県花き植木農協組合会長賞
宇陀市 西谷栄治 台杉
- ・金賞
三橋正和
- ・銀賞
佐野義隆
- ・銅賞
久保田裕次 藤野紀夫
- 【春日大社・奈良県切花品評会】
(令和3年9月28日)
- ・農林水産省生産局長賞
平群町 向井正治 小菊
- ・奈良県知事賞
葛城市 高松智郎 二輪菊
- ・奈良県議会議長賞
平群町 岡田有弘 小菊
- ・春日大社宮司賞
宇陀市 岡本 清 ダリア
- ・華道春日流総裁賞
平群町 姓本 茂 入才ラン
- ・春日大社萬葉植物園園長賞
平群町 城 守 小菊
- ・日本花き生産協会会長賞
葛城市 西川隆則 二輪菊
- ・関西生花市場協同組合理事長賞
平群町 米田博英 小菊
- ・日本ばら切花協会会長賞
下市町 梅本清嗣 バラ
- ・奈良県花き植木農業協同組合会長賞
宇陀市 明崎好男 ダリア
- ・奈良県切花協議会長賞
平群町 大西一彰 小菊
- ・金賞
向井正治 岡田有弘 高松智郎
- ・銀賞
向井龍太郎 姓本茂 米田竜祐
- ・銅賞
明崎好男 滝本政司
- ・向井琥太郎×2点 向井花奈 向井眞起
- ・向井道治 向井志歩 田仲清高
- ・姓本弘子 明崎好男 高松智郎
- ・米田博英
- 【第一回鉢花大口品評会】
(令和3年5月12日)
- ・金賞
明日香村 平井一広 ジニアプロフュージョン
- ・銀賞
葛城市 岡本康宏 日々草
- ・檀原市 西田順洋 日々草
- ・銅賞
明日香村 平井一広 ペンタス
- ・三宅町 志野孝光 金魚草
- ・奈良市 森川幸則 マリーゴールド MIX
- 【第二回鉢花大口品評会】
(令和3年11月17日)
- ・金賞
明日香村 平井一広 ガーデンシクラメン
- ・銀賞
奈良市 くるみ農園 パンジー虹色スマイル
- ・御所市 吉川公彦 ハボタン MIX
- ・銅賞
奈良市 くるみ農園 ビオラ
- ・檀原市 脇山茂雅 シクラメンファンタジア
- ・広陵町 松井万里子 オドリハボタン華
- ・天理市 辻本文敏 パンジー
- ・吉野町 川上徳久 ハボタンチヂミ